

## 調査報告書

### 1. 活動の背景

世田谷区は、太子堂地区が震災時危険な地域であるとして、1980年防災街づくりのモデル地区に指定、密集市街地の整備事業を計画した。

82年、建設省から木造賃貸住宅地区総合整備事業（現密集市街地整備促進事業）86年には国土庁から防災緑地網整備促進事業の適用を受けて建物の不燃化、狭隘道路の整備、広場・公園づくりを進め、現在までに不燃領域率を50%まで向上させる成果を挙げている。

ところが昨年3月、太子堂3丁目の国立小児病院跡地（33200㎡）を都市基盤整備公団が取得、また今年5月には東京都住宅供給公社の太子堂住宅（10700㎡）建替え計画が決定した。

太子堂2,3丁目地区の12%以上を占める土地の新しい開発計画の浮上に伴い、従来の地区街づくり計画および法定地区計画の見直しが必要になってきた。

このため、世田谷区は地域住民の要望を受けて16年3月に「国立小児病院跡地周辺まちづくり方針・計画」を決定、隣接する三宿2丁目の法務省研修所跡地などを含めた一帯（約12.7ha）を避難誘導ゾーンに指定して、将来広域避難場所とするための整備を行なうことにした。

これに伴い、国立小児病院跡地に新設される道路、そこから駅へ向かう道路、周辺からの避難アプローチなど、車の道路とは別の視線で歩行者を考えた道路整備が必要となってきた。

本年度前半は「国立小児病院跡地に新設される道路」について優先的に検討した。また、後半は「そこから駅へ向かう道路、周辺からの避難アプローチなど」をテーマとし、「安全裏道ルート発見」のワークショップを開催し、その検討を行なった。

### 2. 活動の経緯と目的

H13年2月	坂口 厚生労働大臣に面談し小児病院跡地譲渡先について要望
H13年3月	区議会に防災拠点確保の請願
H13年5月～	区に働きかけ国立小児病院跡地周辺まちづくり懇談会を開催させる (H13年9月まで計5回)
H13年9月	都市公団に防災空地確保などの要望書提出
H13年9月～H14年3月	密集市街地におけるミニ共同溝設置に関する研究 (住宅生産団体連合会よりの補助)
H14年3月～	跡地環境汚染問題を取り上げ厚生労働省と折衝
H14年7月	都市公団に防災空地確保などの要望書を再度提出
H14年10月～15年2月	跡地開発検討会議の開催(計8回、事務局の役割)
H15年2月	跡地開発検討会議通信第1号を発行(周辺全戸配布)
H15年3月～	跡地開発検討会議の休止を申し入れ

	(以後公団は周辺住民への説明会を数回開催)
H 15年 4月	小児病院跡地解体終了後、環境汚染問題を再指摘
H 15年 7月	国土交通省が太子堂地区を「くらしのみちゾーン」のモデル地区に認定
H 15年 9月	小児病院跡地隣接の都住宅供給公社建替えが表面化、話し合い開始 まちづくり計画の見直しを区へ要望
H 15年 9月	勉強会を発足させ、国交省道路局地方・環境課の清水将之氏、同関東 地方整備局道路部地域道路課の足立賢一氏から「くらしのみちゾーン」 事業の説明を受ける
H 15年 10月	関東地方整備局地域道路課の櫛引繁雄課長らと今後の事業化の展望 などについて協議。研究会準備会開催。
H 15年 11月	久保田先生セミナー & 研究会準備会。旗の台見学会。
H 15年 12月	第 1回研究会開催。以後毎月開催。
H 16年 1月	千駄木見学会開催
H 16年 2月	「くらしのみちフェア」参加。秋山先生「くらしのみち」セミナー開催
H 16年 3月	「くらしのみち」まち歩きワークショップ開催。都公社建替計画説明会
H 16年 5月	区「まちづくり計画見直し懇談会」開催
H 16年 8月	都市機構「新設公園」説明会
H 16年 9月	区長に「提案作りの協力要請」の要望書提出
H 16年 11月	都市機構、区、警察署に「外周道路の整備に関する要望書」提出
H 16年 12月	都住宅供給公社に要望書提出

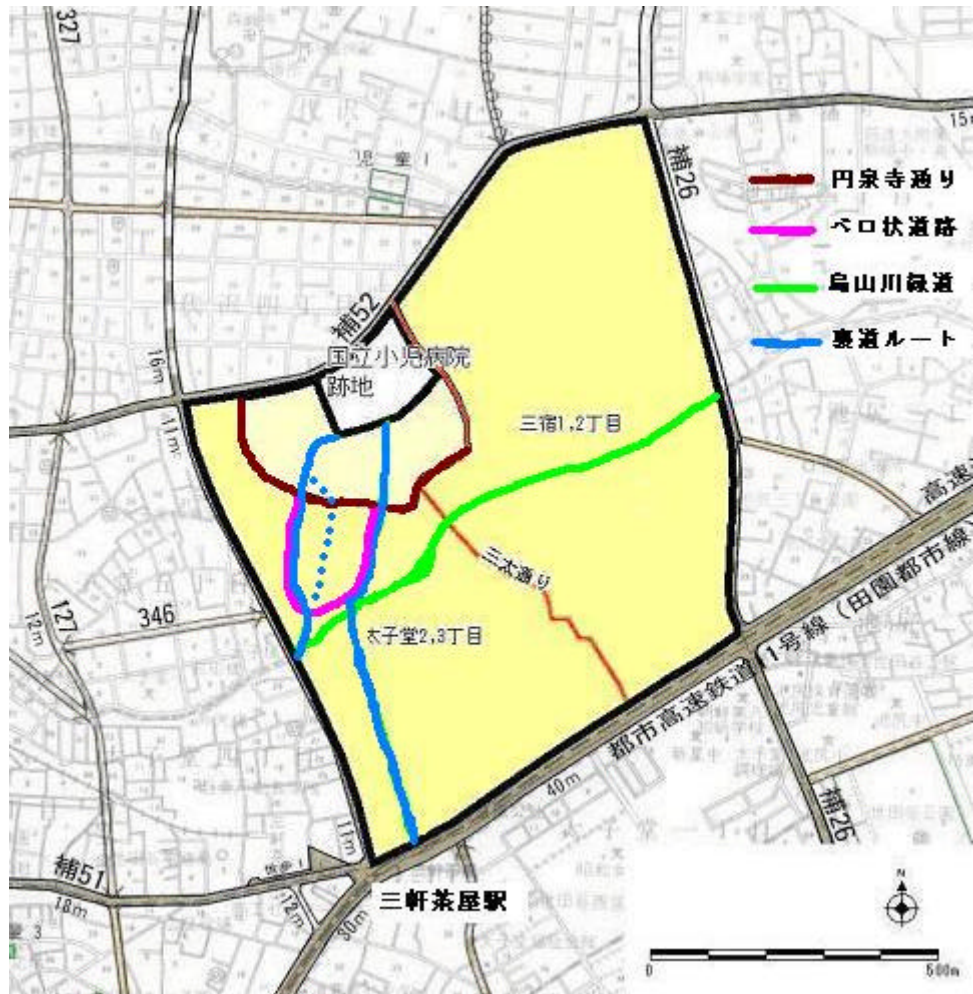


図1 対象地区

対象とする地区は三軒茶屋駅に隣接しており、交通施設や商業施設への歩行者、自転車交通の多い地域である。土地利用は住居系が主の木造密集市街地であり、国・都の密集事業に先駆け修復型の防災まちづくりがすすめられている。また国立小児病院跡地において都市基盤整備公団による開発計画がすすめられている。この跡地周辺地区は、広域避難場所の指定を目指すこと、周辺施設を一体的な避難誘導ゾーンとして形成する連絡経路を整備していくことが、跡地周辺まちづくり計画に盛り込まれている。

地区内の交通状況を見ると、狭隘な道路が残り、歩行者の安全が犯されている現状がある。今後、国立小児病院跡地周辺に新規道路が整備されるが、地区全体の外周となる幹線道路に未整備の部分があり、交通量も極めて大きいことから、道路整備後の通過交通の流入が懸念される。また地区街づくり計画にもとづく道路整備においても通過交通への対応が必要だろう。このようなことから、現状での問題対応だけでなく中長期的にも対象地区全体の交通静穏化を目指した計画づくり、まちづくりが求められる。

国立小児病院跡地開発の周辺地区を対象として国土交通省のくらしのみちゾーンに指定されたので、この地区にふさわしいみちのあり方について「くらしのみち研究会」を立ち上げ議論しているところであるが、国立小児病院跡地開発による新設道路が双方行道路で計画されており、これが地区全体の安全を確保するゾーンシステムに多大な影響を与えかねない。地区全体のゾーンシステムは、早急には住民の合意を得られないので、研究会ではまず、この新設道路

に特化して提案をまとめることにした。

また、国立小児病院跡地開発は複数のマンションが計画されていることと、南側住宅地へのアプローチが新設されることから、今までの病院と異なり多くの住民の鉄道駅までの動線が考えられる。さらに、跡地内に防災避難空地が設置されることから、非常時に住民が安全に避難できる機能も必要となる。あわせて計画されている都公社の建替えを含め、この歩行者動線を安全で快適な道に誘導できるよう、これに関するワークショップを開催し、検証することとした。

具体的には、2回のワークショップ開催の予定であったが、期間も限られていたため、1日に凝縮して開催し、都市計画プランナー桑沢氏、国土館大学・寺内講師の継続的なご協力で行うこととした。

### 3．活動の内容

#### 3-1 活動の経緯

H16年12月9日	<b>第13回研究会</b>
H16年12月13日	<b>第1回新設道路懇談会</b>
H16年12月23日	協議会12月定例会
H17年1月7日	協議会運営会議
H17年1月13日	<b>第14回研究会</b>
H17年1月27日	協議会1月定例会
H17年1月29日	<b>第2回新設道路懇談会</b>
H17年2月3日	協議会運営会議
H17年2月10日	<b>第15回研究会</b>
H17年2月20日	協議会2月定例会
H17年3月1日	協議会運営会議
H17年3月10日	<b>第16回研究会</b>
H17年3月13日	<b>裏道ルート発見ワークショップ</b>
H17年3月17日	臨時まちづくり協議会
H17年3月24日	協議会3月定例会

#### 3-2 活動の内容

全般の活動内容は、別添「活動記録」に記載しているもので、ここでは主に研究会とワークショップ、住民説明会について記すこととする。

##### **第14回研究会**

H16年12月9日(木) 場所:旧まちづくりハウス  
出席者; 専門家3名、行政5名、太子堂住民6名、  
住団連1名、学生2名 合計17名

今までの経過説明と今後の活動予定を打ち合わせした。  
住団連入江部長を招き、住団連の紹介と他地区での電線地中化計画の説明を受けた。  
12/13の新設道路懇談会の打ち合わせを行なった。  
新設道路に関する警察との打ち合わせ報告があった。

**第1回新設道路懇談会**                      H16年12月13日(月)      場所 ;太子堂中学校  
内容は別紙「12月13日懇談会の主な質疑内容 Q&A」の通り

**第15回研究会**                      H17年1月13日(木)      場所 ;旧まちづくりハウス  
出席者 ; 専門家3名、行政5名、太子堂住民8名、三宿住民1名、  
都市機構4名      合計22名  
12/13の新設道路懇談会の報告と警察協議の情報披露があった。  
1/29の第2回新設道路懇談会の当日の提案を決めた。

**第2回新設道路懇談会**                      H17年1月29日(土)      場所 ;太子堂中学校

**第16回研究会**                      H17年2月10日(木)      場所 ;旧まちづくりハウス  
出席者 ; 専門家3名、行政3名、太子堂住民8名、  
都市機構3名                      合計17名  
警視庁および消防署協議の報告があった。  
1/29の第2回新設道路懇談会議事録メモの確認、提案書の内容確認、ニュース3号の配布、  
3/13の安全裏道WSなどを決めた。

**第17回研究会**                      H17年3月10日(木)      場所 ;旧まちづくりハウス  
出席者 ; 専門家3名、行政3名、太子堂住民8名、  
学生3名                      合計17名  
前回の研究会としての提案書を2月のまちづくり協議会に諮り、了承を得たので、関係各機  
関へ提出したことの報告があった。  
電線地中化分科会からのレポートの説明があった。  
3/13の安全裏道WS打ち合わせを行なった。

### 3-3 裏道ルート発見ワークショップ

#### (1) ワークショップ開催の目的

国立小児病院跡地開発では650戸、約1,400人、公社跡地開発では、220戸、約440人の新規居住人口が想定されており、その多くは歩行・自転車手段による三軒茶屋駅方面との行き来が主になると考えられる。しかし、この動線に沿う茶沢通りは歩道が狭く、看板・商品類のはみ出しがあるなどの障壁も多く、安全・快適な歩行環境とは言いがたい。

本調査は、国立小児病院跡地方面と東急田園都市線三軒茶屋駅を結ぶライン上にあつて、車とは動線が分離され、かつ快適に歩ける歩行者系の裏道を見つけ、当該ルートを主たる歩行者系の軸としての安全向上策を検討することにつなげようとするものである。

#### (2) ワークショップの進め方

裏道発見作業は、前年度調査（ひや！マップ、よいとこマップ）の成果を生かし、地域住民、学生、などの参加による「まち歩き点検ワークショップ」の方法によつた。

チラシ配布による参加呼びかけの結果、14名の参加があつた。（専門家2名、行政2名、太子堂住民5名、三宿1名、学生4名）



歩く前の説明



太子堂中学校東側道路



図作成・Aコース



図作成・Bコース



検討発表・Aコース



検討発表・Bコース

# 発見!! うらみちるーとまち歩き

## 参加者募集!!

平成17年3月13日(日)

午後1時 太子堂中学校 正門に集合!!

雨天決行



主催：太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会  
くらしのみちゾーン研究会

## 安全・快適な「うらみち」をチェックしよう

三軒茶屋駅と国立小児病院跡地方向を結ぶ、歩行者のための安全・快適なうらみちと一緒にチェックしてみましょう。このルートは非常時の避難ルートとも重なります。

## さらにステキな「うらみち」にするための相談をしよう

いくつかのルートについて、どんなことをすればさらに快適になるか、参加者で話し合ってみましょう。

沿道を花で飾ってみたら!

電線はどうにかならないかなあ

案内板やベンチがあると良いな

うらみちに名前をつけちゃおうか



もうすこし明るいといいね

# ワークショップ タイムスケジュール

3月13日(日)

**13:00** 太子堂中学校前集合、まち歩きのルート・ポイント説明、  
グループ編成：3ルート(中央通北2 南1)

**13:15** 出 発

主な点検項目

**みち**：道路幅員、有効幅員、電柱、街灯、舗装材、勾配

**景観**：近中遠景、看板、沿道住宅環境、樹木

**安全・快適**：休憩スポットの有無、塀、交差点見とおし  
はみだし駐輪

**特筆すべきこと**：花、におい、音 など

**14:30** 三宿まちづくりハウス集合

( 休 憩 )

**14:45** 集合図作成(30分)

問題点を大きな地図に書きこむ

**15:15** 安心・快適に歩くための対策とアイデアを出す(意見交換)

たとえば

どこをどのように改善する

舗装材、停止線、進入禁止、電線地中化

周知・誘導方法

案内板、サイン、チラシ

快適性の向上施策

花いっぱい、打ち水、道路の愛称つける



**16:30** 終 了





### (3) 設定コース

設定コースは以下の2コース設置した。

#### Aコース



茶沢通り「寄り」の裏道を中心とし、かつ中央通り以南の複数の裏道をチェックするルート

#### Bコース



中央通り以北で複数の裏道をチェックするルート

### 3-4 ワークショップの結果

#### (1) Aコースの結果

太子堂中学校東側付近

- 太子堂中学校敷地側の不整備が目立つ。緑化促進も1手段か？
- 中学校校庭東側に非常用の扉を付ける。(将来、前面の郵政宿舎を抜けて都市機構の防災空地に通じ抜けられるようにしたい)
- 淡島通りより円泉寺通りまでは学校、私有地共に緑が多いので大事にしたい。

新設公園出入り口付近

- ひと休みベンチと大きな木が良い。季節によっては、気持ちがよさそう。老人には特に。
- 坂は急過ぎて危ない。雨天・雪の時は滑る。

円泉寺通り変形5差路交差点付近及び西側一方通行(円泉寺参道)

- 円泉寺通りの電柱が傾斜していて震災時避難の障害になる。
- 見通しの悪い変形5差路交差点のクランク解消は、どうする？
- 日曜日の歩行者天国の時に、車が沢山入ってきて危ない。

べる状路線西側

- 駐車場の赤松、玄関前の庭などはすてき。
- まちづくり用地正面の物置は、どうにかならないだろうか？

ゴリラビル東べる状路線

- 道路の両側の歩行者スペースに電柱があり、歩行に邪魔である。

## 烏山川緑道付近

- ・ 並木通りがあり 散歩するなど憩いの場として良い。やすらげる。
- ・ べろ状路線東側から緑道への道は短絡ルート必要。脇の土地取得して抜け道作っては？

## 烏山川緑道南側の平行道路

- ・ 玄関前の緑の飾りつけが良いが、道幅狭いので、拡幅必要。
- ・ 古い家は震災時に倒壊して道路を塞ぎ避難の障害になる。  
「お菓子の太子堂」向かい側
- ・ 広場通りへの貫通道路必要。換地できないか？  
広場通り(ふれあい広場の東側)
- ・ 茶沢通りの1本裏、6mの歩行者道路にしたいが、買い物客や通勤客の放置自転車対策必要。
- ・ カドック広場のテーブルイスが無くなったので、放置バイク置場が多い。お知らせタワーのスペースをもっと有効活用できないか。

## 国道 246及び旧水路

- ・ 旧水路北側部分は整備されていて、とても歩き易い。垣根・植木も良い。南側も4m巾道路に整備しては？

## 公園通り

- ・ 子供の遊び場の花壇は綺麗。ただしもう少し手入れが欲しい。(空き瓶利用は良くない)
- ・ 家の前に緑や花を配置している家があり 道路から眺められ ゆったりして気持ちが良い。

## 全体提案

- ・ マップ作りをしては？(食べられる木、桜、梅、緑、等)
- ・ 街灯が古く 淋しい。統一したデザインのもので、数も増やすと良くなると思う
- ・ べろ状路線西側道路から駅へ向かう道は、ゴリラビル脇から茶沢通りへ出てしまうコースと左に曲がってから茶沢通りへ出るコースに分かれる。
- ・ 現状ではいずれも茶沢通りを南下することになるが歩道が狭く歩きにくい。1本裏の道(広場通り)への物理的繋がり、誘導の方法が今後の課題となろう。

当日の作業図



## (2) B コースの結果

### 新設公園出入口付近

- ・ 緑の管理や休憩ベンチなど良好な環境がある。
- ・ キャロットタワーを望む貴重な視点場。
- ・ 勾配がきつくすべり止め対策、手すり設置などの対策が必要。

### 林芙美子旧居宅付近

- ・ 路地の良い雰囲気を残しているが、案内サイン設置により一般客の出入りが多くなり、居住者には不安・不満もある。
- ・ 隣接する駐車場がどのような土地利用になるか、注視する必要がある。

### 寺山修司記念館付近

- ・ 地元の人にしかわからない通り抜け道路である。
- ・ こぶし広場の使い勝手がよさそう

### その南

- ・ このルートは車が入ってこないため、歩行者の安全は確保されるが、防犯上の問題がありそう
- ・ 路面の傷みがはげしい。

### べろ状路線東側

- ・ 緑道との接点をどうにか確保したい。
- ・ 沿線の古い木造建築が良い雰囲気を残している。 キャロットタワーとの対比が景観として面白い。
- ・ 比較的車の走行が多い。
- ・ くろまつ広場はごみ集積所と化している。

### 円泉寺通り付近

- ・ 並木を残したい。
- ・ マンション建替え後の戸建て住宅群の評価は賛否両論あり

### 円泉寺脇

- ・ 開発地との接点となり歩行者の需要が高くなると考えられる。
- ・ 階段でのつなぎになるが、バリアフリー対策を講じる必要がある。

### 東側の通り

- ・ あまり歩きたくない。

### 水道道路

- ・ 道路曲線が良い視野を生み出している。
- ・ 平坦なため、自転車利用に都合が良い。

### 全体提案

- ・ MAPづくりで、ルート紹介をすることが必要だ。
- ・ 連続性を確保することによってルートを誘導することもできる。(花による連続性、照明デザインによる連続性、路面デザインによる連続性など)
- ・ 通り名称をつけてはどうか。
- ・ B コースでの主たる歩行者系ルートが想定できる。緑道以南の一部区間のルートを確認できれば、連続性を確保でき、有効。とりあえずは、サインなどで出入口を案内するなどの方法を

とる

### 当日の作業図



- (3) 全体まとめと今後の展開 「ひとこやさしい路地づくり」  
活動を通じた安全裏道ルートづくり

- ・ 今回のワークショップで、複数の主たる歩行者系ルートを想起することができたが、安全・安心の歩行者系道路を確保するには、利用者に認知してもらい、愛されるための「しこみ」が行われる必要がある。その手段として、MAP づくりや沿線での花いっぱい運動などを行い、多くの利用者を巻き込んだ活動とともに「ひとこやさしい路地づくり」へとつなげていくべきである。

#### 合意形成

- ・ また、沿線住民全てが歩行者の増加を望むかどうかなどの問題もあり、理解と協力を得る話し合いの場を設け、合意に基づく活動とすることを前提にしなければならない。その結果によっては、まちづくり計画の見なおしにつなげていく必要がある。

#### ルートの整備仕様

- ・ 利用者のルートは、時間帯や通行目的、あるいは徒歩か自転車かの交通手段によって変わってくる。それらのことを考慮した上で今後、整備仕様を考えていくことが有効かつ効率的である。

#### 用地確保の問題

- ・ ルートの連続性を確保するために必要となる用地が新たに生じた場合は、二項道路として、あるいは宅地内通路としてなどいくつかの手法の中から適切に選択していくことが望まれる。

## 4. 活動の成果

前年度より継続して活動した「くらしのみち研究会」の交通動線ゾーンシステムの一部を形成する国立小児病院跡地新設道路に対する提案書が、住民の意見も含めて関係各機関へ提出できた。また、「くらしのみち」としての裏道ルートのワークショップも、これから始めた区と協議会における「周辺まちづくり計画」の見直し作業などに盛り込み、「住民にとっての災害に強く暮らしやすいまちづくり」が期待できる。

## 5. 今後の展開

さらに今後も「くらしのみち研究会」に残されている地区全体のゾーンシステムのさらなる議論、検討及び実現に向かってのさまざまな活動を行っていく予定である。

## 6. 活動のポイント

本活動における人材、資金調達、ネットワークや支援体制について以下に示す。

#### 活動の人材

太子堂2・3丁目まちづくり協議会を中心に、国立小児病院跡地周辺にも参加を呼びかけた。今年度の活動は「くらしのみち研究会」を中心に跡地新設道路に重点を置いた為、その道路に関しての関係各機関との調整に時間を要したが、今までは協議したことが無い警視庁とも協議が出来たし2回の懇談会を通じて周辺住民との交流も出来た。また、区の職員の参加、専門家の参加もたいへんなパワーをもたらしたと思われる。

### 活動のための資金調達

普段の活動は、会費収入・行政補助が見込まれないので討議だけに終わってしまっている。

一方、地元住民の自主的活動に対する補助の無い地区指定の事業もあるので、調査費などによる補助は、短期的に活動を活発化できるのでありがたいと思う

### ・ 活動のネットワーク・支援

太子堂2・3丁目という狭い範囲であるが、長年にわたる協議会活動を行っている。

今まで関わっていただいたことのある専門家、今回のテーマに沿った専門家、その関連の大学生、役所の各部署など、多岐に渡る人材、支援団体を我々がネットワークを形成している。

例えば、一昨年の「ニ共同溝に関する研究」の支援団体「住団連」、その時のメンバーである脇所氏（東電タウンプランニング）、昨年から引き続きお願いしている寺内氏、桑沢氏など、今までの活動の中からの人材は貴重な存在である。